

ホーム名：グループホームひより南 ユニット1						
自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	NPO法人オリーブの園は共生社会創設の可視化に努め、理念を活動として事業化している。グループホームケアにあたる職員は職員憲章を携帯し、年間標語も憲章に基づいて掲げている。	ホームの理念は、「共生社会作り」。より一層の質の向上に向け、法人「オリーブの園」職員憲章九ヶ条の内毎年1ヶ条ずつ順番に、特に目標として掲げている。本年は第2条である。	名札の裏に書かれている職員憲章はいつでも目にする事ができ、集いの場所にも本年度の目標が掲げられている。目標を高く掲げられ更なる研鑽を続けられたい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ホームの納涼会や餅つき大会などの行事には地域の方も参加して頂いている。また、体育祭や敬老会、味噌作り、喫茶室などの地域行事には積極的に出かけており、また、地域の方からも直接声をかけてくださるなど交流はできている。地域の行事ではホームの看護師も救護員として参加している。	地域の自治会にホームとして加入している。地域行事にも入居者は参加しており、地域の一住民として暮らしをしている。ボランティアの受け入れも活発であり、地元商店での買い物なども含め交流を大切にしている。	今後も、地域の一住民として繋がりを大切にしなが生活をつれていかれたい。高齢者の専門知識を地域に還元され、地域には必要なホームとしての活動の継続を期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では地域の方々にも参加していただき認知症サポーター養成講座を行ない、認知症の啓発活動を行なった。また、認知症ケア専門士のいる施設として玄関にポスターを貼るなど、介護相談や認知症に対する知識の提供などにあたっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では不眠のモニタリングや介護相談員派遣事業についてなど利用者さんに関わるテーマで話し合ったり、外部評価の報告や認知症啓発などを話し合い成果をあげている。また、近隣のグループホームに参加を呼び掛ける拡大会議、家族会等で内容を充実させるなど、質の向上を目指している。	家族・自治会長・民生委員・市役所高齢施策課職員・服部地域包括支援センター職員・介護相談員・法人理事長の参加を得、3か月に1度開催されている。運営推進会議は豊中市のモデルとして行っており、質の向上を目指した内容の濃いものとなっている。	会議の開催日程は、年間スケジュールで決定される。近隣のグループホームに参加を呼び掛けるなど、開かれた、また、より質の高いホーム作りに邁進している様子が伺える。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議メンバーには市職員が毎回参加しており、情報交換等協力関係を築くよう取り組んでいる。また、高齢施策課だけではなく、生活福祉課など関係部署とも連絡を密にしている。	市の職員には運営推進会議へ出席して頂き、ホームへも足を運んで頂いている。高齢施策課では入居者の経済的な問題、生活福祉課では生活保護に関する相談など、問題解決に向け協力しながら取り組んでいる。	困難事例の受け入れや問題解決に向けての取り組みを、市や地域包括と行っている。今後も市と積極的に関わりながら、連携を保って行って頂きたい。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束をしない事は重要事項説明書でも表明している。人権と倫理に重きを置き、職員会議等においても身体拘束をしない学習を促進させており、職員にはパンフレットを配布している。	職員会議などで周知徹底を図り、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関は開錠され、自由に入出入り出来ている。雨天の日は、入居者の身の安全を図るため、高めに取付けた自動ドアのタッチプレートを操作している。	どのような行為が身体拘束にあたるのか、具体的な行為について話し合うなどしながら身体拘束をしないケアの実践を更に続けられたい。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等においても時間をとりわけて、人権や虐待について職員はあらゆる視点から捉えられるように、自己の感受性を高められるような映画会等も行っている。新人職員には特に人権学習に重きを置き、学習提供している。			

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については家族にパンフレットを配布する等を行っているが、必要とされる方には積極的にリーガルサポートやひまわりサポート等を薦め、順調に進んでいる。又、日本認知症ケア学会等で開催されている学習機会を捉えて参加している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約締結時だけではなく、契約更新時にも個別面談会を開き、説明責任を果たせるよう努めている。利用者や家族が持つ不安要因に対して、こちらからの説明だけでなく、不安に対しては充分に聴く姿勢も大切に、信頼関係を築けるよう心掛けている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームでは利用者さんの自由な意見が出やすいよう、和やかな雰囲気の中で自治会が行なわれており、職員は希望に添えるよう計画し実践している。またご家族の要望は計画書に記入欄を設けたり、家族会などで意見を聞き、反映させている。</p>	<p>年2回の会合を持つ家族会があり、運営推進会議には会長・副会長の参加もある。月1回は家族に來訪して頂き、顔を合わせて話をする機会を設けている。ホーム内自治会があり、催しや要望・希望などを表出することにより反映されている。</p>	<p>家族会があり、参加意識が高く積極的に参加して下さるとの事。今後も家族を支えどんな事でも相談できる良好な関係を維持していただいたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回の職員会議では各個人の意見が出やすいように工夫している。また、QOS委員会など、個人の意見が反映されるシステムもある。</p>	<p>毎月の職員会議で意見や要望を聞いている。また、ピンク用紙“気づきの記”に気付いた事を何でも記入し、法人QOS(クオリティ オブ スタッフ)委員会に提案する手法(コンテスト方式、懸賞金有り)で職員の意識を高めている。</p>	<p>理事長のパワーと施設長の人柄で、職員が一丸となって“ひより南”を少しでも良い方向へ持って行こうとする意気込みが感じられた。今後も、意見や提案・要望の出し易い環境作りとそれらの成果に期待する。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>法人では職員ランクが6段階に分かれており、個々の成長度合いによりランクアップし、給与に反映されるようになっている。又、福利厚生に手厚く、資格取得助成金等も整備されている。外国人が働きやすい環境作りも制度化されている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>必要に応じて資格取得を勧め、取得に対する助成金や勤務の配慮をするなど、内外の研修には積極的に参加させている。法人のランクにより必須研修項目があり、人材を人財に、専門職として自立していけるようなメンター的な取組みに努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>拡大運営推進会議で同業者を呼ぶ機会を作る等、同業者間交流を図る事を積極的に行っており、茶話会程度に気楽に意見交換できる場づくりにも努めている。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>最近では病院から移られてくる方も多く、医療ソーシャルワーカーや担当医、看護師との関係を保ちながら情報収集に努めている。特に入居時は本人も家族も不安ことが多いと思われ、細やかな声掛けに心がけ、ホームに慣れて頂く事を第一に計画している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族の介護苦勞等に関わり、傾聴や共感の中でラポール形成に努め、信頼の構築を図っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>引越し方法や送迎等、家族にとっては入居する段階での心配事も多く、事前面接や入居直前での打ち合わせ等、個々のニーズに合わせた支援を行っている。特に待機の場所等については、他のサービスを含めた待ち方法を選択できるように提案している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>味噌やらっきょう作り、芋のつるの料理などの和風料理等、若い人たちが知らない事などを昔とった杵柄で教えてもらっている。相互のラポール形成の構築は“共に在る”ことの喜びであると捉えている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>時に家族と本人の関係改善にも介入する場合もあるが、共に本人を支える事を前提に情報交換を行い、在宅への復帰も視野に入れた総合的な方針を打ち出している。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>面会日や時間においても常識的な範囲であれば特に制約しておらず、友人が尋ねてこられることもあるなど、馴染みの美容院からの訪問があるなど、グループホームに入居しても以前の馴染みの関係が断ち切れることなく過ごせるよう配慮している。年賀状やお便り書き等の手伝い等も支援している。</p>	<p>近所の飲食店・スーパー・美容院など、馴染みの店への利用を継続して支援している。</p>	<p>今後も、自宅の生活のように馴染みの人や場所との関係が継続できる支援をお願いする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>クラブ活動やレクリエーションなどを通じて仲良くなれる機会を提供している。また、新入居の場合などは、自治会長などの助けを通して支援して頂いている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>自立され自宅に帰られた時や、死亡退去された家族にも折にふれて必要があれば相談にのり、又、お手紙を頂いたりしている。気軽にコーヒーを飲みに来られたり、お花を持って来ていただける方もいる。NPOとして社会福祉の一端を担っており、絆やつながりを大切にしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の個々の思いや暮らし方の希望は日々のコミュニケーションやティータイム、自治会などの和やかな雰囲気の中で引き出せる様に努め、ルンワークの中に個別ケアの視点や自立支援、本人の強みを活かせる支援を大切にしている。	日々の生活の中から、本人の思いや意向を汲み取る努力をしている。入居者の残存能力を活かしたケアに心掛けている。	きめ細かい取り組みの積み重ねで入居者の思いは十分汲み取られていると思われるが、今後も“気づき”に心掛け、何気ない仕草や会話からも推し量る努力をしていてもらいたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	出生地や方言、食事の味付け、習慣等も回想法に活用したり、長期記憶を会話に取り入れるなど、パーソンセンタードケアとして安心して生活できるようにしている。バックヒストリーを収集するなど計画アセスメントにも活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人々のフレッシュなリアルニーズを常に気づきサポートして行くプロセスが日常であり、その柱となるエンパワメントとホスピタリティのケアを実践している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画方針は本人・医師・家族・職員の見解を反映させている。情報の収集、分析、提供に努めている。	毎月1日付で長期目標・短期目標を設定している。その時々や経過は、即パソコンに入力し、データベース化している。家族と医師は年2回面接の機会を持ち、話し合いの内容は介護計画に反映されている。	情報は全てパソコンに入力され、毎月の推移がグラフ化される。情報の収集・管理が介護計画及び介護支援に非常に大きな成果を上げていると感じ入る。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本マニュアルをベースに、個別支援サービスマニュアルを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実習施設や家族の宿泊、ホームの行事では地域の方に来て頂くなど柔軟に活用している。また、ホームの隣には多機能なスペースがあり、入居者や家族の宿泊や集い、地域の集いなどのサービスにも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム入居後も入居前と変わりなく、近所のスーパーや商店街へ買い物に出かけたり、うどん屋さんや食堂などで外食を楽しんだり、地域の行事にも参加できるよう機会提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診専門の医療機関と提携しており、月2回の定期往診により、居宅療養管理が出来るように支援している。24時間365日いつでも往診可能となっている。	往診専門の医療機関が月2回の往診、「ひより南」担当の医師に何時でも対応してもらえる。信頼関係も出来ている。ターミナルケアも含め年2回の医師との面談日も設けている。	医師との連携は充分取れている。看護師は毎日出勤し、医師の指導の下、薬剤師と連絡を取り薬の管理、職員へ医療面の指示などホームの医療体制は万全を期している。今後も継続されたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>医療連携ホームとしてホームに看護師がおり、日常の健康管理や医師、薬剤師等との連絡調整を行なっている。介護職員は健康上気づいたことを報告し、連絡を密にしている。また、職員の健康管理も含めて健康診断等全体の保健・衛生も管理している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時はホームから病院に対してのサマリーを提供している。又、入院時や入院中、退院に際しても管理者やホームの看護師が病院に出向き、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーと直接話をするなど連絡は密にしている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に向けた方針等はホームドクターと家族とのインフォームドコンセントにより定期的に、また必要時適宜行われている。家族も共に参加できる看取りとなるように援助しており、希望によりお通夜・お別れ会等も手作りでサポートしている。</p>	<p>看取り指針を重要事項説明書に明文化し、今まで何人もの看取りを経験している。終末期になると家族にも関わってもらい、医師の指示のもと、看護師の援助を得て支援している。「こころの溶け合う瞬間である」との理事長の言葉もあり、思いのこもった看取りをされている。</p>	<p>「共に生きる」の言葉どおり重度化しても家族の一員である入居者をホームでお世話することを当然と理事長は考えている。看取りをして、お通夜やお別れ会をする。重度化しても心配なく暮らせるホームとして入居者はもとより家族も安堵していることと推察する。今後とも心のある終末支援を続けていただきたい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は救命講習を受講しており、豊中消防署より市民救命サポーターステーションに認定されている。救急マニュアルも職員各人に渡し、訓練も定期的に行っている。特に食事中の誤嚥についてはトレーニングを重ねている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害・地震を想定した自治会の防災訓練等にも参加し、地域との協力体制構築に努めている。昨年はスプリンクラー設置や建築基準法に伴う補修工事を行ない安全確保に努めた。今年はいざという時の防災訓練を日常の中に取り入れられるように隔月の防災訓練を予定している。</p>	<p>当ホームは民家改造型グループホームであり、昨年スプリンクラーと建築基準法に伴う補修工事を行った。年2回の災害訓練のほか日常的防災訓練を頻繁にする計画である。</p>	<p>「いざと言う時に慌てない」ため日常的防災訓練をする。今年津波対策として入居者と職員の人数分の「ライフジャケット」を用意するなど、一歩進んだ防災対策は大変評価に値する対策といえる。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>常に自分に置き換えて考えてみる事や、自己の感受性に敏感で有る事を人権や倫理として磨いていけるよう研修を行っている。</p>	<p>運営母体の理念、職員憲章を礎に常に自分に置き換えて考えられる人材育成をしている。長年生きてこられた方を尊敬する心で対応出来るように日々指導している。</p>	<p>理事長はまず職員がいろいろの経験や体験をすることで視野を広め感受性を養い、人の気持ちが汲み取られる人材を育成する考えで研修をしている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>家庭的な共同生活の中では遠慮なく自己決定や自己選択が出来る雰囲気があり、自治会等も利用者間で運営されている。その中で活発な意見も出されており、職員は要望により行事計画を行い実践している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームは共同生活といえども一人々の生活の場であり、その人の生活リズムを大切に、暮らしを支援するために小さな仲良しグループでの趣味活動等、個別の支援を大切にしている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>身だしなみはその方の自尊心を守る大切なものであり、特に外出時等はTPOに配慮しマニキュアや化粧などにも心がけている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節感があり、目で見てもきれいで、家庭的な雰囲気の中で、利用者さんの力も借りて楽しく食事が出来るコミュニケーションも食の文化性と共に大切にしている。又、生活リハビリとして調理の下ごしらえや、盛り付け、食器拭き等は利用者さんと一緒にしている。おやつ作りも楽しみの一つである。</p>	<p>”自治会”で何を食いたいかを聞いて、食事専門職員が作る。休みのときは職員が作る。四季折々の料理を饗して食べる楽しみを大切にしている。職員研修を兼ねて兵庫県に菜園を持っている。菜園で採れた有機栽培の野菜をホームで食べている。</p>	<p>職員も「同じ釜の飯」と言うことで食事は同じであるが、食事介助が有り職員は同じテーブルには着いていない。豊富な献立、外食の機会も作っている。おやつは皆で作るときもあり、食の楽しみは満たされていると見受けられた。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養や水分補給の目安は計画の中に入れており、不足する場合は食事形態や嗜好に配慮している。特に夏季や冬季は脱水にも留意もしている。又、BMIの変動もモニタリングし、栄養に関して医師の指導も受けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々の状況に応じた月々のサポート方法はセルフケア計画の中で示されており、必要な方は適宜に口腔ケア指導を受け、年に一回はほぼ全員専門歯科医師による口腔ケアチェックや指導を頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄は排泄サインをつかみ、個別のトイレ誘導を主に失敗に繋がらない様に努力している。</p>	<p>排泄のサインは職員が見逃さないための研鑽も積んでいる。頻尿で安眠できない入居者に対し、医師の指導の下センサーの利用と眠剤の服用で熟睡できるようになり、夜間のトイレの回数を減らすことが出来た例がある。</p>	<p>若いときは誰もが望んでいた自立排泄は生活意欲の回復、身体機能も向上する。諦めず自立排泄を続けられる支援の継続をお願いする。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘は水分・運動・セルロースの多い食事が関与しており、一人々の飲水の目安などを定めている。また、季節や発熱によって不感蒸泄にも配慮し、水分補給には特に気配りすると共に腹部マッサージ等も計画されている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>身体を清潔にするだけでなく、入浴は心のホリデーでもある。ゆず湯や菖蒲湯などで季節感を味わったり、入浴剤を用いて色や香りを楽しんだり、楽しいコミュニケーションを心がけている。</p>	<p>日曜日以外はお風呂は沸かしている。2～3人用の大風呂、一人用個浴と2種類がある。入居者の希望に副って入っている。湯換えはその都度行い清潔にしている。ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤も使い楽しい入浴時間としている。</p>	<p>入浴は衛生面でも心身を癒すためにも大切である。重度化しても家族であるので、職員4人で抱えてホームの風呂を使ってもらうようにしている。楽しい入浴の時間の継続をお願いする。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設全体が有機的でリラックスできる環境である。居室は個室であり、また家庭的な雰囲気特に緊張感もなく、ベッドではいつでも休息できる環境が整えられている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬ボックスへの薬のセットは薬剤師に依頼している。配薬は基本ホーム看護師が行っている。介護士も薬の知識や副作用、留意点に至るまで学習を提供し、その冊子はいつでも見ることが出来るよう定位置に備えている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内の自治会やクラブ活動等もあり、自己実現としての発表会の場や機会も生きがい支援として行っている。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近くの公園へ散歩に行ったり、スーパーへ買い物に出かけるなどの日常もあるが、外出行事等は“自治会”により、利用者さんの希望や要望を聞き、車で片道1時間前後を目途に、出来るだけ要望に沿えるよう、集団や個別での対応に努めている。	淡路島の「あわじ花さじき」までコスモスを見に日帰りで行った。いつも“自治会”で行きたいところを聞いて行き先を決めている。日常的には近所の散歩や買い物、喫茶店に出かけている。	外出して、ドライブインで好きなものを買ったりすることで自己決定の機会もでき、足腰の鍛錬だけでなく複合的効果もある。これからも“自治会”の活動とともに”外出”も活発となることを期待する。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーで日用品などを買うこともあるが、地域の喫茶室などで好きな飲み物や食べ物を注文したり、おやつを買うなど、財布を持つての買い物もサポートしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙や年賀状、季節の絵手紙などを支援している。又、家族や知人からの電話の取次ぎも行っている。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感があり、家庭的で明るい雰囲気を大切にしている。音楽や香り、花や緑、熱帯魚などリラックス感がある。ホーム内には有線の心地良い音楽や懐かしい音楽がいつも流れている。	2階リビングには7段飾り、1階にはケース入りお雛様が飾られている。飾り棚にも赴きある置物があり落ち着いた空間である。2階居間は雛飾りで少々手狭間になっているが、理事長お手製のタペストリーが飾られた廊下のソファで三々五々語らっていた。共有空間や外回りは専門職が、お風呂は職員が掃除をしている。	ホーム外壁の植え込みには運営母体「NP0法人オリーブの園」に因んでオリーブの木が数本植えられており、玄関脇には植木鉢もあり明るい。日中は玄関は施錠せず開放している。室内には静かな音楽が流れ、良い香りもしており、終の棲家としてところ安らぐ住まいである。これからもゆったりとした生活の出来る住まいとして期待している。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室で座談をしたりとのんびりと過ごしたり、また、廊下にもソファを置いてゆつくとくつろげるよう、居場所作りを工夫している。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の住みなれた部屋をできるだけ再現できるよう、使い慣れた家具等を持ち込んで頂くなどの工夫をしている。入居後も自分らしい居室作りが出来るよう支援している。	入居者の好みの物を部屋に持ち込んでそれぞれの趣向に副った居室に設えられている。布団は屋上に干している。各居室には洗面とトイレが設置されている。居室は職員が手伝って入居者と掃除しており清潔に保たれている。	入居者の高齢化は避けられない。各居室にはトイレが設置されているが段差があるため運動になると言えども更なる見守り支援と今後の対策も必要と考える。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の表示はわかりやすく、言葉のセンテンスを少なくしている。色の工夫やデザインを活かしながら、さりげない中にもわかりやすさを工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいの ③職員の3分の1くらいの ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいの ③家族の3分の1くらいの ④ほとんどできていない